

△……宗門にいま一番欠けてゐるのは僧侶自身の「信仰」ではないでしょうか。  
 宗門には論者が多いとはいつても感心してゐるからです。  
 澤山の修辭を並べて教團の衰微を嘆き革新教團の構想を語る烈々たる護宗の士、また該博な知識をもつて教團と近代諸思想とを對決して其宗の優越性を説く護法の士、結構だと思ひます。

ところがこれらの人々に法衣をぬがせて國會や教壇に立たせたとしてもどツタリ、ワタにハマつてハミ出しも寸足せられるのは在來法縁に恵まれなかつた私のヒガ眼でしょうか。これらの人々に會つてみて何となくシツクリ來ないという感じを持つことが多いのです。宗教者としてのシンが弱い、という感じ。勇を鼓して申しあげると「御信心」が足りないんじゃないかと感ずることが多い。櫻島先生が宗務總長になられました。このニュースを世間の新聞は、我々書いば本人ですら驚くほど大きな扱いをもつて迎えました。新聞記者仲間には「犬が人にカミついても記事にはならない。人が犬にカ

### 記者の眼から見た宗門

福田定一  
 (司馬途不郎)

ミつけば記事になる」という下らぬ謔があります。この公式をこのニュースに當ててハメ責任者に通り一ベンの宗教家が就任したつてそれは普通、何かの拍子で本物の坊さんが就任する、それは大ニュース。というかつこうになるも「佛教界廣しといへども本當に御信心を得た人や得よう」と努力している本物の坊さんなんてそうザラにはいませぬ

よ」というのがタカをくつた相場なのかも知れません。しかし櫻島先生のニュースが大きく扱われた理由の一面には「宗門がどうか本物の宗門になつてほしい」という世間の切なる願望もひそんであるのではないのでしょうか。  
 さて私は編集者から「宗門を外で見る立場から何か建設的な意見をかいてくれ」と頼まれました。が、宗教記者になつて二三年目なら私も何か「建設的」な愚見を書いたで

しよう。今では「教團の信心の炬火を熾んにせよ」としかいえないようになりました。問題はこちらに始まつてこれに終るのではないのでしょうか。淨土眞宗が次に再飛躍するには、近代諸思想と對決して近代人の宗教あるいは次代人の精神の支柱たるにふさわしい内容を前進させることもひろく大

事です。教團が近代社會の存在として過不足なく呼吸出来るだけの組織改革も大事でしょうが、第一義と第二義との混同はさけるべきだと思ひます。  
 △……私は革新の僧侶の護人かを知つております。その人たちの氣持には十分共鳴しその人達の抱負には心からその敬をまつております。が、その人達の何人かが持つてる半面について妙な氣持を抱かされてゐるのも事實です。つまり、その何人かの人には、本山に來れば「風習を含めて佛教は教學的にも組織的にも意識の上からも十六世紀以降全く

停頓してゐる。この死物化し怪物化した古めかしい外装をもつてどうして「近代」に對處して行けるか」とか「世襲制のジャンダルにマツカリ入れよ」、「資官制の制度をほうむれ」、「宗會制に格闘を加えよ」などと身をふるわしてカンカンガタガタの意見をのべられるのです。ところがこの人達が我國の御自坊に歸ればどうでしょう。「御院さん」なんですよ。日本の國でも一番すわり心地の良きさうな座がとんのの上に坐つておられるのです。

いへば叱られるでしょうか。経済的にはとまれ、意識の上では「貴族」的な何かがあります。今どき貴族の殘像なんて案外風采のある地方の坊さんだけかも知れませんよ。ひろくそれが農村の封建性というものがそうさせてゐるのもあるのでしょうか。とにかく、頭の中には新しい思想がいばいなのに、足は心地よいスルマ湯の女御院さん意識の中に浸けておられて何等奇とされなさい」となるや怪物はむしろ夫子御自身といひたくはります。宗門前進への大きな障害の一つは、御住職個々の踏まれておられる足元

の邊にあるのではないのでしょうか。  
 「宗門興隆ノ方途ヤ如何」などというムツかしいことは聞きあきました。宗門百年の大計は「一にも二にも」本物の宗教者が一人でも多く出ることによつてのみ、宗門の將來を我々は期待することが出来ます。

宗門は「宗門を」興隆させようと思つても出来ません。宗門者が宗門を目的に置いてどうしようというよりも「この有難い法を一人でも多くの人と聞きあう悦びをもたい」といふ純粹さを出発点としてのみ世間はこちらを向くでしょう。「宗門愛」にかけては人後に落ちず」などと成員個々が宗門よりも自分の周囲の人々に宗教愛をそそぐことをよつてのみ宗門も生き抜く道が開けると思ひます。  
 (大阪新聞記者)

**佛敎古本高價買入**  
 大正新修大藏經、眞宗大系眞宗全書、佛敎大典、聖書全集類等に高價買取致しませう  
**佛敎古書専門 あそか書林**  
 (大地方出口) 七條通烏丸西四丁目  
 京都府烏丸区一丁